

Nadeshiko

大野晃子

代表



090-4626-5698

nadeshiko10

東京都渋谷区恵比寿4丁目5-13-206

ビジョン

「キレイは、楽しんだ人の勝ち！」を体感していただき、性別、年齢など関係なく楽しく笑顔になる時間を提供させていただきます。プロカメラマン、料理研究家とコラボメニューも随時、追加予定です

個別性や多様性が重視される昨今、在宅医療現場でもさまざまなニーズに対応した訪問自費サービスが注目されてきています。今回は渋谷区・港区・目黒区を中心に訪問介護美容サービス「Nadeshiko」を運営されているケアビューティスト大野晃子代表です。これまでの歩み、訪問介護美容サービス、そして今後の介護・福祉サービスに向ける思いを熱く語っていただきました。（2025年5月取材）

大野代表のあゆみ

大野さんのルーツを教えてください。

生まれは東京の成増ですが、育ちは埼玉の川口です。一人っ子で、父は運送業、母は私が中学生になるまで事務の仕事をしていました。

幼い時から洋服が好きで、洋服を作る人に憧れて、中学・高校と家政科に進み、田中千代ファッションカレッジで服飾デザインを学びました。実は美容師にも興味があったのですが、「作りたい」という思いが強く、服飾の道を選びました。専門学校では、2年間の基礎課程に加え、より専門的な知識を深めるため3年間の専攻科にも進みました。

卒業後は、憧れのブランド「ラストシーン」で販売員としてキャリアをスタートしました。当時はバブル崩壊後でしたが、高価な洋服もよく売れる時代でした。販売の傍ら、パタンナーを目指していましたが、なかなか機会に恵まれず、その後、縫製を手がけるアパレル会社に転職しました。しかし、結婚・出産を機に、6年ほど育児に専念することになりました。

その後の2004年に復職し、7年間ほど婦人服の縫製に携わりました。パターンも書けましたが、主にミシンを踏む仕事でした。当時はまだ、日本製のアパレル製品もわずかに残っていましたが、徐々に海外生産へとシフトしていく時代でした。

2011年には、意外にも大手寿司チェーンAに転職されていますね。

勤めていたアパレル会社が倒産してしまい、子供もまだ小さかったので、時間的な融通が利く仕事を探していたところ、オープニングスタッフの募集を見つけたのがきっかけです。接客から厨房業務、パートリーダーとして店舗運営まで、幅広く経験させていただきました。クレーム対応など、様々なお客様と接する中で、コミュニケーション能力が鍛えられたと感じています。

本当に様々なタイプのお客様がいらっしゃったので、どんな方にも対応できる自信ができました。



また、パートながら社員と同様の研修やテストを受けた経験は、責任感や問題解決能力を高める上で貴重な財産となっています。

介護との出会い、そして美容への再燃

お父様の怪我がきっかけで、介護の世界に足を踏み入れられたそうですね。

2013年のことでした。父が仕事上の事故で頸椎を損傷し、介護が必要になったことがきっかけです。介護未経験だった私は、不安を感じ、すぐにヘルパー2級（現在の初任者研修）の資格を取得しました。半年間の通学で、座学だけでなく、デイサービスや入居施設、訪問介護など、様々な現場での実習を経験しました。

本当に色々な方々がいらっしゃって、一人ひとりに合わせた関わり方が重要だと痛感しました。特に印象的だったのは、お風呂の介助です。入浴を嫌がるご利用者さんに、いかに気持ちよく入っていただけるか、試行錯誤の連続でした。言葉のかけ方一つで、相手の反応が全く変わる。コミュニケーションの大切さを改めて学びました。また、ご利用者さんの過去の経験やパーソナリティを理解することで、より良いケアにつながるということも学びました。信頼関係を築くためには、表面的な会話だけでなく、心を通わせることが大切だと感じました。

介護現場では利用者さんとの信頼関係が重要かとよくお聞きしますが、信頼関係を築くために何か特別なことをされていましたか？

私は、たぶんすごく会話をするんです。お風呂の中でも、ずーっと喋っています。マンツーマンなので、秘密の話を聞けたりすること。私たちからしたら、ご利用者さんの意識を失わせるようなことは絶対にあってはならないので、そうならないためにも「お湯熱くないですか？」とか、色々な日常の話をします。自分の息子の話や娘の話もしますよ。そうやって、相手から話を引き出すために、自分のことも話すんです。本当に大変なこともありましたが、すごく面白かったです。

ヘルパーさんの中には、そこまで会話をしない人や関係を築けていない人もいますね。同じ方をお風呂に入れるにしても、担当する人によって意識を失ってしまうことがあったりするんです。入れる側も怖いし、入れてもらう側も不安だから。「大野さんが入ってくると安心する」と言ってもらえたりして、頼りにしてもらえたのは嬉しかったですね。やっぱり、会話って本当に大切だと思います。

ご利用者さんの家庭環境も、会話の中から見えてくることがありますし。一人暮らしの方なら、家に帰っても誰とも話さないということもあるので、デイサービスでどれだけ話せるかが重要だったり。入院して退院してきた方の、入院前後の様子の変化を見ながら話を聞くことで、何か心配事がないか察したり。リハビリを待っている時などに声をかけて、ちょっとした変化に気づいて話しかけたりしていました。「なんでわかるの？」と驚かれることもありましたが（笑）。

7年間のデイサービス勤務を経て、再び美容の世界へ戻られますが、そのきっかけは何だったのでしょうか？

きっかけは、友人にしてもらったハンドエステでした。デイサービスの仕事が体力的に、特に腰に来ていたということもあったんですけど。ハンドエステの気持ち良さに感動し、「これを顔にもやったらすごいだろうな」と思ったんです。美容への興味が再燃し、B社というメーカーのフェイシャルエステに関する資格を取得しました。顔だけでなく、首やデコルテ（首から肩、胸元にかけての部位）、手、背中など全身のケアができる技術に加え、オイルトリートメントとメイクアップの資格...



続きはQRコードからアクセスしご覧ください → → →